



大成学園の礼法 110年のあゆみ

学校法人大成学園

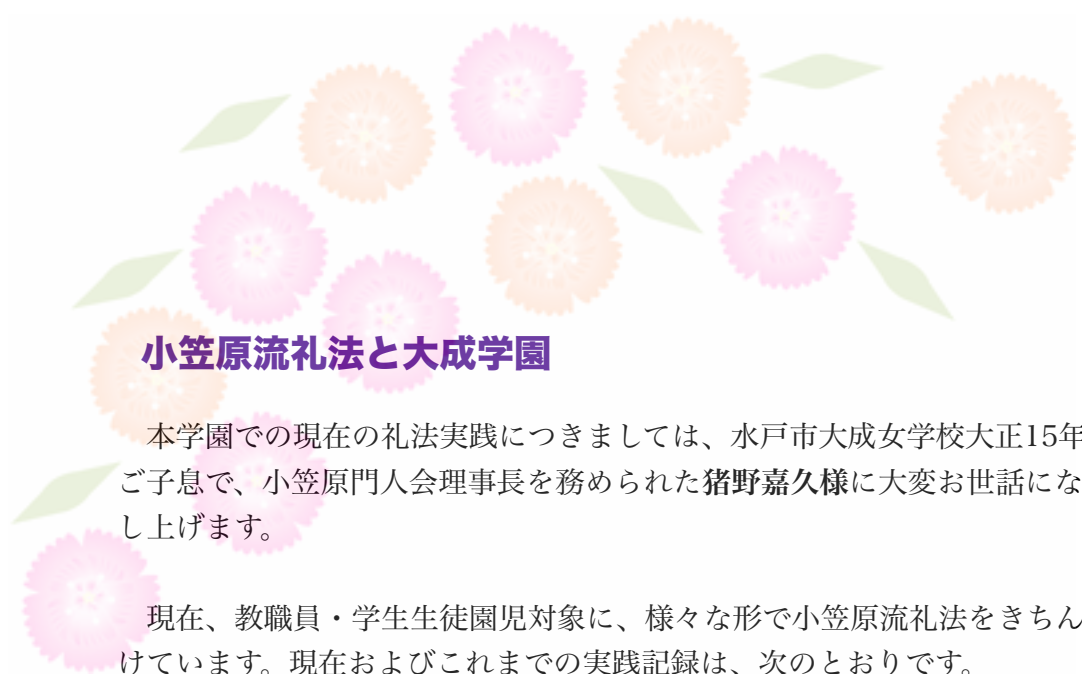
礼法は、相手を敬う気持ちを形に表し人間関係を円滑にするための日本の伝統文化で、古来より私たち日本人の心の中に大切に継承されてきました。長い歴史の中で、公家社会では公家礼法が、つづく武家社会では武家礼法が整い、町人（商人・職人）の間でも他を敬うしきたりが生まれ、その後は広く一般の生活の中にも取り入れられました。時代や社会制度の違いはあれど、礼法の基本精神は変わらず、これにより社会の秩序が維持されてきました。

その中で弓馬術礼法小笠原流は、鎌倉時代より途絶えることなく継承され、武士の身分がなくなった明治期以降においては、東京府の命によりいづれ子どもを育てる女子の教育のなかに正式に取り入れられ、「小笠原流礼法」として全国に広まりました。

本学園では、1909（明治42）年の額賀三郎・キヨ夫妻による大成裁縫女学校創立当初より、小笠原流礼法を教育の柱のひとつとして正課に取り入れました。さらに大正から昭和初期にかけては、我が国の女子教育および幼児教育の先覚者であり、本校の教諭・校長を務められた豊田英雄（とよだふゆ）先生により『人格高き女子を造れ』のスローガンのもと、「知と徳の両輪」を有した文質彬彬*たる「社会に貢献できる女性の育成」を目指し、礼法教育を前提とした女子教育が推し進められました。以来今日に至るまで、礼法を教養の根幹に位置する大切な精神として、様々な実践を続けています。

私塾創設100年（2007（平成19）年）、学園創立100周年（2009年）を契機に、学園をあげて小笠原流礼法を本格的に学び直す機会を設け、以降、教職員・学生生徒園児に至るまで関係者全員が正しく実践することを目指し、人間性の優れた人物として成長することに努めています。

*文質彬彬（ぶんしつひんぴん）：洗練された教養をもち、なお飾り気のない品格のある人物



小笠原流礼法と大成学園

本学園での現在の礼法実践につきましては、水戸市大成女学校大正15年卒業生猪野みつ様のご子息で、小笠原門人会理事長を務められた猪野嘉久様に変にお世話になりました。深く感謝申し上げます。

現在、教職員・学生生徒園児対象に、様々な形で小笠原流礼法をきちんと身につける機会を設けています。現在およびこれまでの実践記録は、次のとおりです。

【学生生徒園児対象】

- | | |
|------------------------------|---|
| ・大成女子高等学校での2007年度から現在までの実践 | 3 |
| ・大成女学校での創立時から終戦までの実践 | 4 |
| ・豊田英雄先生と小笠原流礼法 | 5 |
| ・戦後から2007年までの実践 | 6 |
| ・作法室・礼法室の変遷 | 7 |
| ・茨城女子短期大学での実践 | 8 |
| ・認定こども園大成学園幼稚園・大成学園額田保育園での実践 | |

【保護者対象】

- ・大成学園幼稚園

【教職員対象】

- | | |
|-------------|----|
| ・種々の研修会の主催 | 9 |
| ・種々の研修会への派遣 | 10 |

【大成学園における作法・礼法の指導年表】

- | | |
|--------------------|----|
| 創立時（1909）から2019年まで | 11 |
|--------------------|----|

大成女子高等学校の現在の礼法指導

私塾創設100年となる2007（平成19）年度から全生徒対象に1年次に週1回「礼法Ⅰ」の授業を学校設定科目として実施している。教科書は、小笠原流三十一世宗家小笠原清忠著、一般財団法人礼法弓術弓馬術小笠原流発行『入門小笠原流礼法 美しい姿勢と立ち居振る舞い』を使用。

実績が認められ、2015年度よりご宗家小笠原清忠様から卒業生全員に「受講証」を授与されている。

2017年度には小笠原教場から派遣いただいた門人の先生による授業を、年に3回実施した。

現在、家政科生徒はさらに3年次に週1回「礼法Ⅱ」の授業を受講、看護科生徒は3年次より専攻科卒業まで実施する看護実習に向けて、「礼法」を復習する機会を繰り返し設けている。



2007年度の様子



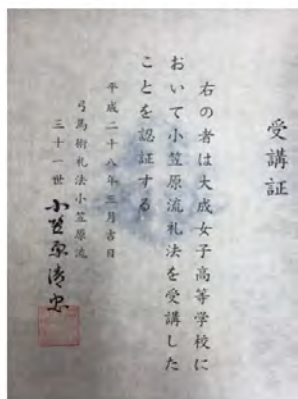
2014年度の様子



2017年度の授業風景



現在使用のテキスト



小笠原家の家紋の透かしが入った受講証と授与式の様子

創立時から終戦までの大成学園の礼法

本学園創立者のひとり額賀キヨ先生は1900（明治33）年に東京裁縫女学校（現在の東京家政大学）高等科を卒業された。当時の女学校では小笠原流礼法が女子の必須の行動基準として指導されており、本学園でも創立時より主に額賀キヨ先生が小笠原流礼法指導を担当され、教育の要として実践していたことが当時の資料（卒業記念帖や教育課程表）からわかる。

また、東京女子師範学校の教師で日本最初の保育士である豊田芙雄先生には1917（大正6）年から1928（昭和3）年までの本校ご在職中に、礼法指導にもご尽力いただいた。

1936（昭和11）年からは東京女子高等師範学校家事科卒の額賀あや子先生も加わり、精力的に指導が行われた。

1940・1941年には東京の小笠原流礼法高倉支教場より高倉タマヨ先生を講師としてお迎えし、定期的にご指導をいただいたことが記録に残っている。また同年に、裁縫・編物担当で小笠原支教場女礼7等の免状を持つ石井伊佐子先生も指導に加わられた。



額賀キヨ先生



1919（大正8）年頃



1923（大正12）年度



1927（昭和2）年度

高倉タマヨ先生は、小笠原流ご宗家から認められた正式の礼法教場「高倉支教場」を主催していた高倉憲子氏のご息女。高倉憲子氏は、共立女子学園の前身である共立女子専門学校において二十九世宗家小笠原清明先生と共に礼法を教えられた。タマヨ先生は昭和12年頃より共立女子学園講師を務められ、女学校時代の本校においても作法を教授されていたことが当時の資料や1941（昭和16）年発行の『創立三十周年史』に記録されている。のちにお母上から高倉支教場を継承されている。



1941（昭和16）年度卒業記念帖より高倉タマヨ先生による作法授業の様子

豊田英雄先生と小笠原流礼法

豊田英雄先生は、日本の幼児教育に大きな功績を残した日本人初の幼稚園保姆として著名な方で、同時に草創期から発展期の日本の女子教育においても、多大な足跡を残された。

豊田英雄先生は、自らは江戸末期の1857（安政4）年13歳の時に江戸の水戸藩邸で礼式等を教えていた深作治十夫人ふでのもとで『小笠原女礼』を写本して礼法を学ばれた。教師となってからは、東京女子師範学校（現 お茶の水女子大学）附属幼稚園保育見習科の教え子たち（横川楳子や、自らが設立した翠芳学舎の教員竹澤里ら）が、小笠原二十八世宗家清務（きよかね）先生について礼法を学んでいる**。のちに茨城県高等女学校（現 水戸第二高等学校）で礼法を教授されていた様子の写真が残っていることから、教育者として豊田先生は小笠原流礼法と切っても切れない関係だったことがうかがい知れる。その豊田英雄先生は晩年、1917（大正6）年から1928（昭和3）年まで、本校において教諭及び校長を務められ、生徒たちには和歌や礼法を熱心に指導された。本学園において長らく礼法教育が大切に継承されてきたのは、こうした先生方にご指導をいただいたことで、その重要性をその都度確認する機会に恵まれたからかであろう。

（**出典：「豊田英雄と草創期の幼稚園教育に関する研究(8)」前村晃より）



豊田英雄先生
大正12年卒業記念帖より

豊田英雄先生について

豊田英雄先生は、江戸末期1845（弘化2）年に、水戸の藤坂町（現在の本校付近）の水戸徳川家の家臣桑原家に生まれた。

冬（のちに改名して英雄と名乗る）は、祖父・藤田幽谷、伯父・藤田東湖といった水戸学の学者に囲まれた恵まれた環境で勉学に励み、18歳で嫁いでは夫・豊田小太郎、舅・豊田天功に囲まれ、休むことなく学び続けた。

1873（明治6）年五軒町に創設された発桜女学校（現在の五軒小学校）の教師を務めたあと、1875年に東京女子師範学校（現在の御茶ノ水女子大学）の教師として東京に移り、翌1876年に東京女子師範学校附属として日本初の幼稚園が開設されると、そこで幼児の保育にあたった。これが「日本の保育士第1号」の誕生、豊田先生が32歳のときのことである。今でも皆に親しまれている「蝶々」の歌は、そのときに豊田先生が作られたものだといわれている。

豊田先生はその後、ヨーロッパに留学、東京や宇都宮などで教鞭をとった後、57歳のときに水戸高等女学校（現在の水戸二高）開設に伴い水戸に戻る。水戸高等女学校を辞した後1917（大正6）年から水戸市大成女学校（本校の前身）の教諭となり、1925（大正14）年には校長に就任、83歳で職を退くまでの間、本校で女子教育の充実に力を尽くした。その間、豊田先生は、人は人間性、知と徳育、その両輪を養わなければならない、つまり、教科・学識だけでなく、生き方そのものを磨かなければならないことを強調した。

当時の卒業生の中には、学生時代の辞書を大事に使って、晩年まで和歌を詠んでいた方も多いう。豊田先生の生誕80年を記念して発行された「いはらき新聞」の豊田英雄号（1925年12月14日発行）にはお祝いの和歌が掲載されており、その中には当時的大成女学校の教員や生徒達の歌がある。詳細については、本学園の茨城女子短期大学の小野孝尚学長による豊田英雄研究の成果である『幼児教育・女子教育の先達 豊田英雄とその時代』に書かれている。

戦後から2007年までの大成学園の礼法

1945年の終戦後しばらくは全国的に礼法が学校教育の正課から消えていたが、本校ではクラブ活動の「礼法クラブ」として残しており、1958年11月に礼法室を新築した後には全校で本格的に礼法に力を入れ、1962年には正課として復活させた。これは、額賀あや子先生のご努力によるところが大きい。

額賀あや子先生は1933（昭和8）年東京女子高等師範学校（現在のお茶の水女子大学）家事科を卒業し、文部省の命を受けて山形県立鶴岡高等女学校に奉職後、1936年に本校に着任された。あや子先生が在学中の東京女子高等師範学校では、時勢柄、修身の教育が強化され作法の授業も厳しく行われていた。本校では家庭科と修身（のちに社会科）を担当され、殊の外、礼法を熱心に指導された。

当時の生徒に在学中の様子を話してもらうと必ず出て来るのが「あや子先生の厳しい礼法指導」だが、同時に聞かれるのが「あの厳しい指導があったからこそ社会に出て恥ずかしい思いをせずに済んだ」という感謝の言葉である。あや子先生の姿を見かけると生徒たちのみならず教員たちも緊張したというほど、徹底した指導を貫かれた。



1973年卒業アルバムより
副校長 額賀あや子先生



礼法クラブ 1954(昭和29)年度 1959(昭和34)年度礼法授業 左から4人目があや子先生

「作法」（2004（平成16）年度まで）・「礼法」（2005年度以降）の授業は、柴田書店発行高倉タマヨ著『新しい女子礼法』初版1967（昭和42）年を用いて実施して来た。これは、既述のように戦前に講師として本校でも授業を担当された高倉タマヨ先生のご指導を受け継いできた証である。



高倉タマヨ氏著の本校に現存する
礼法テキストの表紙・裏表紙

作教室・礼法室の変遷

現存する写真や他の資料を見ると、創立当初は板張りの教室で作法指導を行っていたようだが、校舎を増築し『動静有法』の額のある畳敷きの特別教室（作法以外の授業も実施していた）、そして1926（大正15）年10月の新校舎において床の間や違い棚のある専用の作教室が設置され『誠実勤勉』の額を掲げた。1927年3月の卒業写真帖で紹介されている。

1931（昭和6）年9月1日に完成した木造2階建の高等女学校校舎に、床の間・違い棚のある広い作教室を設置した。この作教室には、私塾開設から数えて25年目に当たる1932（昭和7）年の創立25周年式典で祝辞を受けた当時の文部大臣鳩山一郎氏の揮毫による『温良貞淑』の額を掲げた。この作教室は以降ずっと使われていたが、1945年8月2日未明の水戸大空襲によって水戸市街が広く消失し、本校もこの作教室を含む全校舎を失った。

校舎が再建されるまでの間は、市内の多くの学校が近隣の旧兵舎を借りて授業を行なったが、1947年に他校に先駆けて校舎の再建を開始し、その後4棟の校舎が順に竣工し、全生徒が旧兵舎を出て本校に戻れたのは7年後の1953年だった。その年の「礼法クラブ」の活動は、床の間のある専用和室で行われていた記録が残っている。

1958年11月に礼法室を新築した後は全校で本格的に礼法に力を入れ、1962年には正課として復活させた。

1979（昭和54）年竣工の2号館の3階に50畳の広さの和室「礼法室」を設ける。なお、この礼法室は、職員礼法研修会でご来校いただいた小笠原流三十一世宗家小笠原清忠先生より「今時には珍しく正しい畳の敷き方をしている和室」とお誉めいただいた。

2011年3月11日発生の東日本大震災により被災した2号館を建て替え、2013年に竣工したA棟3階に、小笠原清忠ご宗家のご指導の下に新しい礼法室を再建して現在に至っている。



1923年度の特別教室での生花の授業



1926年10月竣工の作教室と額賀キヨ先生



1931年9月竣工の作教室



1953年竣工の礼法室



1958年度竣工の礼法室



1979年竣工の礼法室



2013年竣工の礼法室で着付教室

茨城女子短期大学

キャリア形成ゼミにて年に1回、就職活動に向けた社会人としてのマナーを知る授業を実施している。



小笠原流の歴史を知る授業風景

認定こども園大成学園幼稚園・大成学園額田保育園

2011年より毎年、修了を控えた園児対象に礼儀作法を体験する機会を設けている。
主に、大成女子高等学校礼法担当教員による体験会を実施しており、保護者からも好評である。



認定こども園と保育園の5歳児：礼法体験の様子

【保護者対象】

大成学園幼稚園

2011年1月25日 宗家ご講話「日常の礼儀作法」（於 大成学園幼稚園 遊戯室）

三十一世宗家小笠原清忠様から園児保護者に向けてご講話をいただいた。「小学作法書」など小笠原流に伝わる資料をもとに、日常生活の中で日本古来の礼法を実践し次の世代につなげていくために親としてすべきこととお話しいただいた。

また、2019年より、園児対象の礼法体験会に、保護者有志も参加いただく機会を設けている。

【教職員対象】

学園全体で「まず大人から」という姿勢で臨んでおり、小笠原流礼法研修会を学園主催で定期的に実施している。

2008年度

那珂市で猪野嘉久先生が主催される惺々館弓道場に於いて、全10回の礼法研修会が開催された。ご宗家小笠原清忠先生、奥様小笠原純子先生、ご嫡男小笠原清基先生による研修会で、学園理事長及び大成女子高等学校家庭科礼法担当教員2名が参加して、基礎を学んだ。

2009年度

学園全体の教職員全員が、三十一世宗家小笠原清忠先生による礼法研修会に参加し、礼法の基礎を学んだ。2009年の9月から翌年3月にかけて全8回にも及ぶ連続講座により、学園全体で日常から礼法を実践していく準備が整うこととなった。本講座終了後に、学園に受講証を賜った。

遠路はるばる藤沢から本校に繰り返しお出かけいただきご指導くださったご宗家、奥様、若先生には、全職員より厚く感謝申し上げます。

なお、この研修会の様子が、同年10月9日付けの日本経済新聞夕刊1面の特集記事「景色移ろう時代 つなぐ・伝える3」に写真付きで取り上げられた。



ご宗家・奥様・若先生による教職員向け
礼法講座の様子 (上)

学園への受講証 (上) と新聞記事 (下)
日本経済新聞夕刊 2009年10月9日

2015年度

夏季休業時に、ご宗家嫡男小笠原清基先生による教職員礼法研修会を実施。



2015年夏季研修で礼法を学ぶ教職員

2017・2018年度

夏季休業時に、ご宗家令夫人小笠原純子先生による教職員礼法研修会を実施。



以後継続して、小笠原教場より講師をお迎えし、新規採用職員・学び直し希望者を中心に教職員礼法研修会を定期的に実施している。

また、高校礼法授業担当教員を中心に、教職員を小笠原教場主催の様々な礼法研修会に派遣している。

これまでの参加状況

2013年 5月 宗家研修：基本体、還暦の祝い、紐結び 等（於 明治神宮）

2013年10月 伊勢神宮62回式年遷宮（於 伊勢神宮）

2014年11月 礼法意見交換会（於 世田谷小笠原教場）

2017年 3月 礼法指導教員研修会（於 世田谷小笠原教場）

大成学園の礼法指導年表

年度	和暦	科目(教科)名	履修学科・コース・学年	担当教員	名称変更等	クラブ等	コース制変更等	特筆事項
1907	明治	40 作法(修身)	記録なし:おそらく全員週1時間	額賀キヨ	私塾			
1908		41 作法(修身)	記録なし:おそらく全員週1時間	額賀キヨ				
1909	明治	42 作法(修身)	記録なし:おそらく全員週1時間	額賀キヨ	大成裁縫女学校創立			
1910		43 作法(修身)	記録なし:おそらく全員週1時間	額賀キヨ				
1911		44 作法(修身)	記録なし:おそらく全員週1時間	額賀キヨ				
1912		45 作法(修身)	別科設置時の教授学科表に明示 週1時間	額賀キヨ	別科設置			
1913	大正	2 作法(修身)	おそらく全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1914		3 作法(修身)	おそらく全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1915		4 作法(修身)	おそらく全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1916		5 作法(修身)	おそらく全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1917		6 作法(修身)	おそらく全科全学年週1時間	額賀キヨ				豊田英雄先生教諭として着任
1918		7 作法(修身)	おそらく全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1919		8 作法(修身)	全科全学年週1時間	額賀キヨ	水戸市大成女学校		本科3年、専科2年、 研究科1年、家政科1 年	
1920		9 作法(修身)	全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1921		10 作法(修身)	全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1922		11 作法(修身)	全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1923		12 作法(修身)	全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1924		13 作法(修身)	全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1925		14 作法(修身)	全科全学年週1時間	額賀キヨ				豊田英雄先生校長となる
1926		15 作法(修身)	全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1927	昭和	2 作法(修身)	全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1928		3 作法(修身)	全科全学年週1時間	額賀キヨ				豊田英雄先生老齢のため辞職
1929		4 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ	高等女学校併設		高等女学校4年・補習 科1年を女学校に増設	
1930		5 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1931		6 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1932		7 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1933		8 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1934		9 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1935		10 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ				
1936		11 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ・額賀あや子				
1937		12 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ・額賀あや子				
1938		13 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ・額賀あや子				
1939		14 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ・額賀あや子				
1940		15 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ・額賀あや子・ 高倉タマヨ				高倉タマヨ先生が講師として教 授
1941		16 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ・額賀あや子・ 高倉タマヨ				高倉タマヨ先生が講師として教 授
1942		17 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ・額賀あや子・ 高倉タマヨ				高倉タマヨ先生が講師として教 授
1943		18 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ・額賀あや子・ 高倉タマヨ				高倉タマヨ先生が講師として教 授
1944		19 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ・額賀あや子・ 高倉タマヨ				高倉タマヨ先生が講師として教 授
1945		20 作法(修身)	高女12年、補習科、女学校全科全学年週1時間	額賀キヨ・額賀あや子				
1946		21 作法(修身)						
1947		22 作法(修身)						
1948		23 要覧なし			新制 大成女子高等学校		普通科・家政科	
1949		24 要覧なし						
1950		25 要覧なし						
1951		26 要覧なし						
1952		27 要覧なし						
1953		28 要覧なし						
1954		29		額賀あや子 ・家庭科教員		作法クラブ		
1955		30		額賀あや子 ・家庭科教員		作法クラブ		
1956		31		額賀あや子 ・家庭科教員		作法クラブ		
1957		32		額賀あや子 ・家庭科教員		作法クラブ		
1958		33		額賀あや子 ・家庭科教員		作法クラブ		作法室新築
1959		34		額賀あや子 ・家庭科教員		作法クラブ		
1960		35		額賀あや子 ・家庭科教員		作法クラブ		
1961		36		額賀あや子 ・家庭科教員		作法クラブ		
1962		37 作法(家庭科)	普通科就職3年家政科123年	額賀あや子 ・家庭科教員	正課復活		普通科就職進学	
1963		38 作法(家庭科)	普通科短大就職3年家政科123年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科就職短大進学	
1964		39 作法(家庭科)	普通科就職2年家政科123年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科就職進学	
1965		40 作法(家庭科)	普通科就職23年家政科123年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科就職進学	
1966		41 作法(家庭科)	普通科就職12進学1年家政科12年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科就職進学	

年度	和暦	科目(教科)名	履修学科・コース・学年	担当教員	名称変更等	クラブ等	コース制変更等	特筆事項
1967		42 作法(家庭科)	普通科就職12進学1年家政科12年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科就職進学	
1968		43 作法(家庭科)	普通科就職12進学1年家政科12年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科就職進学	
1969		44 作法(家庭科)	普通科就職12進学1年家政科12年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科就職進学	
1970		45 作法(家庭科)	普通科就職12年進学1年家政科12年衛生看護科1年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科就職進学	
1971		46 作法(家庭科)	普通科進学1年就職1・2年家政科123年衛生看護科1年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科就職進学	
1972		47 作法(家庭科)	普通科1年家政科123年衛生看護科1年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科就職進学	
1973		48 作法(家庭科)	普通科1年家政科123年衛生看護科1年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科教養短大四大	
1974		49 作法(家庭科)	普通科1年家政科123年衛生看護科1年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科教養短大四大	
1975		50 作法(家庭科)	普通科1年家政科123年衛生看護科1年	額賀あや子 ・家庭科教員			普通科教養短大四大	
1976		51 作法(家庭科)	普通科1年家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員			普通科教養短大四大	
1977		52 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員			普通科教養進学特進	
1978		53 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1979		54 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				創立70周年:2号館3階新作法室
1980		55 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1981		56 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1982		57 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1983		58 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1984		59 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1985		60 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1986		61 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1987		62 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1988		63 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1989	平成	1 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				創立80周年:
1990		2 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1991		3 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年衛生看護科1年	家庭科教員				
1992		4 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年	家庭科教員				
1993		5 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科123年	家庭科教員				
1994		6 作法(家庭科)	普通科1年教養／家政科1・3年	家庭科教員				
1995		7 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科1・3年	家庭科教員				
1996		8 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科1・3年	家庭科教員				
1997		9 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科1・3年	家庭科教員				
1998		10 作法(家庭科)	普通科1年除特進／家政科1・3年	家庭科教員				
1999		11 作法(家庭科)	普通科選択／家政科1・3年	家庭科教員			普通科5コース制	創立90周年:
2000		12 作法(家庭科)	普通科選択／家政科1・3年	家庭科教員				
2001		13 作法(家庭科)	普通科選択／家政科1・3年	家庭科教員				
2002		14 作法(家庭科)	普通科選択／家政科1・3年	家庭科教員			5年一貫看護科	
2003		15 作法(家庭科)	普通科選択／家政科1・3年	家庭科教員				
2004		16 作法(家庭科)	普通科選択／家政科3年	家庭科教員				
2005		17 礼法(家庭科)	普通科選択／家政科3年看護科3年	家庭科教員				
2006		18 礼法(家庭科)	普通科選択／家政科3年看護科3年	家庭科教員				
2007		19 礼法(家庭科)	全1年・家政科3年	家庭科教員				私塾開設100周年:礼法の正式再開
2008		20 礼法(家庭科)	全1年・家政科3年	家庭科教員				一部教員が小笠原流礼法を学び直し始める
2009		21 礼法(家庭科)	全1年・家政科3年	家庭科教員				創立100周年:全教職員がご宗家のもとで小笠原流礼法を学び直し始める
2010		22 礼法(家庭科)	全1年・家政科3年	家庭科教員				
2011		23 礼法	全1年・家政科3年	家庭科教員				東日本大震災にて校舎が被災
2012		24 礼法	全1年・家政科3年	家庭科教員(井坂・竹内)				
2013		25 礼法	全1年・家政科3年	家庭科教員(井坂・竹内・栗田)				A棟3階新礼法室
2014		26 礼法	全1年・家政科3年	家庭科教員(井坂・竹内・栗田・広瀬)				
2015		27 礼法	全1年・家政科3年	家庭科教員(井坂・竹内・栗田・広瀬・黒澤)				
2016		28 礼法	全1年・家政科3年	家庭科教員(井坂・竹内・栗田・広瀬・黒澤)				
2017		29 礼法	全1年・家政科3年	家庭科教員 ・松本淑子(教場門人)				小笠原教場門人の松本先生に生徒の授業を年3回の担当いただく
2018		30 礼法	全1年・家政科3年	家庭科教員(井坂・竹内・栗田・谷川)				
2019		31 礼法	全1年・家政科3年	家庭科教員(竹内・栗田・谷川)				創立110周年:

大成学園の礼法

発行日 2019年11月30日
 発行 学校法人大成学園
 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 3-2-61
 Phone 029-221-7291
<http://www.taisei.ac.jp>